

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170200376		
法人名	株式会社ハピネライフケア		
事業所名	グループホームはあとピア		
所在地	鳥取県米子市久米町200		
自己評価作成日	平成27年5月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 未来		
所在地	鳥取県倉吉市上井		
訪問調査日	平成27年6月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々全ての入居者の思いを聞きながら、家庭的で居心地良く感じていただける雰囲気作りに努め、思いに対して応えられるよう職員同士で話し合い、努力を続けています。  
又、ご家族とのコミュニケーションを大切に、常にご本人に対する思いを知るように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・米子城跡から麓の事業所前の道は木々に囲まれ、弘法大師さんへの散歩やウォーキングコースになっている。地域の人が同敷地内で休憩したり、『子ども駆け込み110番』を引き受ける見通しがあり、地域貢献に繋げている。
- ・職員個々が個人目標を立てて年3回評価を行い、サービス向上や運営に反映している。
- ・月1回の昼食とおやつ作りの日を企画し、作って食べることを楽しめるよう支援している。
- ・全居室に、電動ベッドと収納庫、洗面台を設置し、ゆったりした広さで個々に合ったアレンジをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

★努力している点

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個別ケアを意識しながら、その人らしい生活がおくれるよう支援に努めています。	事業所の入口に理念が掲げられ、朝礼で唱和している。職員は理念を踏まえ、日常のケアや挨拶・声かけなどの対応をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じて、自治会や地域の行事に参加しています。	公民館祭りに出展して見学に行っている。事業所行事のポスターや案内版で地域へアピールしている。納涼祭ではボランティアの参加があった。周辺を散歩する地域の人が事業所の敷地内で休憩している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的な取り組みが現在行なえていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度定期開催をしており、日々のご利用者の様子を知っていただくと共に助言をいただき行事等の立案に生かしています。又、毎月のグループ会議で伝達し改善や対策を行っています。	2ヶ月に1回開催され、会議の内容を職員会議で伝達し、サービス向上に繋げている。地域代表や駅前交番、行政等福祉関係者の出席があるが、利用者家族の参加がほとんどない。	利用者及び家族が参加できるような工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターの職員さん、駅前交番の駐在さん、民生委員さんに運営推進会議に参加してもらい、意見交換・協力関係と呼びかけています。	★運営推進会議で提案され、『子ども駆け込み110番』を引き受ける事業所として承認になる見通しがある。市や警察署との連携により、地域に貢献できるよう努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルに沿い、ご本人の安全確保のためコールマットを使用している方がいる。ご家族に説明・了承を得て同意書を取り交わしている。	身体拘束についての研修を1回/年行い、マニュアルも作成されている。家族の希望により、現在センサーマットを使用している利用者がある。	身体拘束の観点でケア計画へ反映させ、その都度見直しを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者様の尊厳を大切にされた接遇を心がけ、言葉使いなど日常の接し方から気をつけるよう職員で話し合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度5月より後見人制度を利用されている利用者がおられる。研修などを行い理解に努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人および家族に契約書に基づいて書面にて説明し、同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からの苦情を聞いたり、意見箱を設けて対応しています。また運営推進会議にご家族に参加していただき、意見の反映に努めています。	意見箱は設置しているが意見はない。職員は家族等の面会時や電話により意見、要望を聞くよう心掛けている。評価機関が実施したアンケートの回収率は低く、意見を把握できなかった。	利用者家族への満足度調査や交流の機会をもつことで、意見や要望の引き出せるような工夫を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の場や、日々の職員からの意見や提案を聞き、その内容を運営に反映しています。	毎月の職員会議や日々の申し送りで意見交換している。★職員個々が個人目標を立てて年3回評価を行い、サービス向上や運営に反映している。	室内やベランダ等の環境に関して、職員の活躍が可能となるような仕事の分担を進めてはどうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員の準社員への登用制度を人事評価制度と連携させて実施するなどの取り組みを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な研修に参加しています。また、個々に目標を定めそれに向け取り組み、評価することにより職員のスキルアップにつなげています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会が実施している「相互研修」に参加し他の施設の取り組みから学ぶ機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネから情報を頂くとともに、ご本人のお話を聞かせてもらう中で、その人らしさややりたいことなど把握するよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面接で、本人および家族の思いを十分に聞き、不安を解消できるように取り組んでいます。入居に至るまでの家族の労を労い、介護の課題を明らかにして、家族の思いや希望を共有しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「自分らしい生活」が送れる様、何を求めておられるのかをきちんと捉え、それに応えられるようなサービスが提供できるよう心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日々、ご利用者の視点、本人のやりたいこと、お出来になることを大切にして、ご自身の役割が持てるように働きかけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々のご様子を報告したり、面会時や電話連絡時にご家族と話し、思い・意見を交換しています。又、年に数回ご家族が参加できる行事を催し、ご本人と同じ時間を共有できるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員も知人やご家族と積極的にコミュニケーションに努めることにより、より来ていただきやすい雰囲気・環境作りに努めています。	行きつけの美容院への支援をしたり、出身地域の公民館祭りに行き、住民から声を掛けられるなど、なじみの関係を大切にしている。また、公民館祭りにはブローチや毛糸の小物・生け花を出展し、参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士のつながりを大切にして、できる限り日常生活の中で、協力や助け合いの場面を作れるように支援しています。職員が間に入り、ご利用者同士がより係わり易くできるように心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、時々こちらに来てくださるご家族もあり、相談や支援といった形ではなくても、これまでの関係性を大切にして下さっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でお話を聞きながら、その方の思いを知り、受け止め、他の職員と共有しています。	家族等から本人の意向や希望を確認しているが、把握困難な場合、表情を見たり、かかわりの中で反応を確認するようにしている。	意向確認の手段として月1回のモニタリングを実施して行って欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	併設施設の特徴を生かし、入居前にデイやショートを体験していただくなど、ご本人に慣れてもらう・職員も生活歴を把握する機会としています。ご家族にも生活歴の聞き取りを行い、より深い理解に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの思いに合った生活をしてもらえるよう、趣味や楽しみを把握してレクリエーションなどに取り組むと共に、何が出来るのかということに注目し、その方の能力に合った役割を持っていただくことで達成感を感じていただけるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや伝達で、各職員の持っている情報を共有しています。アセスメントシートにご本人・ご家族の意見を書き込む欄を設け、計画の作成に反映できるようにしています。	3ヶ月に1回はモニタリングし、6ヶ月に1回はアセスメントシートでチェックを行い、ケアカンファレンス会議をしている。その会議には家族の参加がほとんどないのが現状である。	6か月毎のケアカンファレンス会議には出来る限り利用者及び家族の参加が必要である。ケア計画は複数立案し、さらに具体的なケア内容に努めてほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録がサービスの向上につながるよう記入方法を見直し、日々情報交換を行ないながら個別の介護計画の見直し・立案に活用しやすい工夫をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の特徴を生かし、全体での行事やレクリエーションに参加してもらっています。また、ご家族の都合がつかない場合は、医療機関への受診や行きつけの美容院への同行も職員で対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設としては働きかけていますが、ご利用者個人としての生活の中では協働できていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に協力医療機関から、診察に来ていただき、往診での対応が困難な場合は、他の医療機関への受診を行い健康管理を行っています。	日常的には協力医療機関である米子診療所の往診を受け、急変時は電話による相談指示を受けている。専門外来は家族と連携し、受診を依頼している。歯科は往診依頼をしている。	緊急時の対応についての研修は実施しているが、利用者の健康管理について異常の早期発見につながるような実践的な学習に期待する。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の服薬管理などは、はあとピアの看護職員の助言をもらいながら行っています。また、定期往診時には、協力医療機関の看護職員さんにも、健康相談にのっていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師やソーシャルワーカーさんと連携を取りながら進めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針として看取りは行っていないことを説明し、重度化し共同生活が困難になった場合には、ご家族と話し合いを行いご本人に合った場所へ転居していただいています。	事業所の方針としては、看護師は同系列の他の事業所へ配置しており、終末期ケアは困難と考えている。要介護3以上になった利用者に対しては、家族へ特別養護老人ホーム等への申し込みを依頼し、待機待ちとしている。	入居契約時の終末期の方針に、重度化の予測について家族の不安が最小限になるよう、契約時に文書を示すなどの配慮が必要であろう。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常的に状況把握に努めるとともに、申し送りなどで大事なことはもれなく伝えるようにしています。緊急対応の連絡先を事務所に掲示して各職員に徹底し、定期的な勉強会を行い緊急時に対応が出来るよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練をご利用者と一緒に実施しています。事務所に緊急時の対応マニュアルを張り、常に確認できるようにしています。運営推進会議の場で自治会との連携・協力体制の話し合いを持ち参加を呼びかけている。	夜間想定訓練を含め、年2回の避難訓練を実施した。また、緊急時の対応マニュアルを整備し、統一を図った。今年は備蓄食料や物品を整備した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人一人の性格を理解した言葉かけに努め、職員同士で日々話し合っています。	定期的な職員会議以外に、日々情報交換し、送りノート等で共有に努め、利用者個々の性格や気持ちを理解し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の希望を聞きながら、行事やレクリエーションなどの企画を実行できるように、一人一人のお話を伺うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に沿えるよう話を聞き、対応できるよう心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった身だしなみができるようご本人の希望を聞きながら、一緒に決めていけるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルに季節の花を飾ったり、食事を楽しむ雰囲気作りを大切にしています。毎月の屋食作り・おやつ作りでは、皆様の希望を聞きながら「食を楽しんでもらう」ということに努めています。	★食事は事業所の厨房で準備されている。日常は利用者のご飯を炊いてよそったり、下膳と一緒にしている。月1回の屋食とおやつ作りの日を企画し、作って食べることを楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事・水分の摂取状況を記録し、把握に努めています。また、少ない場合は好きなものを用意するなどの工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個別に実施状況を記録し、口腔ケアの徹底に努めると共に、拒否のある方には口腔ケアの大切さを理解してもらえるよう声かけの工夫をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどのの方が声かけ・誘導が必要なので、排泄パターンと残存能力を把握し、自立に向けた支援を行っています。	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、声掛け誘導を行っている。歩行不安定な利用者にはセンサーマットを設置し、夜間はポータブルトイレを使用し、転倒防止に努めている。	センサーマットの使用については、家族の意向を記載し、ケア計画にあげ、適宜見直しを期待する。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量を考慮したり、食物繊維を多く含む食材をたべてもらうなど、なるべく下剤に頼らないように支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当事業所の現在の勤務体制ではご本人の希望に副った入浴は困難であり、出来ていません。	入浴日にすべての利用者を支援する体制になっており、勤務の都合上夜間の入浴希望には沿うことができないが、個々の性格や希望をふまえて、入浴支援を行っている。	職員の都合が優先されず、利用者の希望に添った入浴時間や入浴環境について意見交換してはどうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングのソファや自分の居室など、思いのままの場所でくつろげるよう、日常的に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、はあとピアの有識職員の援助をうけて、服薬時の注意事項など各職員への申し送りを徹底しています。各ご利用者の服用している薬はカルテへ情報をファイルし、薬効、副作用など理解し状況に応じた服薬支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のご希望をできる限り聞き出し、生きがいのある生活が送れるよう、季節ごとの外出や手伝いをして貰うことでの「楽しみ」「自分の役割」「達成感」を感じて貰えるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に企画して車での外出はしていません。ご本人の希望があった時には外出していただけるように支援を行っていますが、「その日の希望に沿って」は近くへの散歩のみで車での外出は出来ていません。	月に1～2回、車での外出を企画し、季節にあった所などに出かけている。また、近所への散歩は、本人の希望に副って支援に努めている。	更にふだんの会話や情報などから希望を引き出し、外出支援に反映させてほしい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で所持されている方はありますが、日常的に買うおやつ代程度をあらかじめ、小遣い帳で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、家族への電話は職員がかけてご本人に取り次ぐなどしています。また、手紙や荷物が届いたときには、お礼の電話や手紙をかえせるように職員が支援しています。ご自分の携帯電話を持ってもらえる方もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真やご利用者の作品などを展示しています。又、季節が感じられるような飾り付けの空間作りに心がけています。	季節が感じられる壁面飾りを、利用者と一緒に作ったり、個人の趣味や特技を生かした作品を展示したり、テーブルに花を飾り、居心地の良い空間作りに努めている。	スペースの限界もあるが、物品・消耗品の在庫がみられ、整理収納の工夫をしたり、ベランダの空間をさらに季節感のある場所へ利用者と共に工夫してみてもどうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでのテーブルの位置を工夫したり、ソファを配置して他のご利用者からの視線が気にならない位置を確保するなどの工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の愛直のあるものを居室に置いていただき、居心地の良い空間になるよう支援しています。	★すべての居室に、電動ベッドと収納庫、洗面台が設置され、ゆったりした広さがある。必要な場合は、ベッドの手すりなど、レンタルを利用し、個々にあった自立支援を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新聞や時計、カレンダーなどは確認しやすい所に置き、トイレにも表示を大きく書いて見やすい工夫をしています。又、米とぎやシーツ交換など職員と一緒に「できること」をやっています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	ケアカンファレンスへの家族参加が出来ていない	家族の定期的なカンファレンスへの参加	毎月送付している手紙や電話でカンファレンスへの参加を呼びかける。 遠方の家族の場合は帰省時に合わせる。 (早めに連絡を取り合い日程調整をする)	12ヶ月
2	45	ご本人の満足できる入浴が行えているのか 違った工夫も行えるのではないかな	気持ちがゆったりと出来る入浴時間	入浴方法の見直し 声かけの仕方の工夫 入浴の順番の見直し 入浴係り・声かけ、誘導の係りの役割分担の見直し	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。